先端技術キーワード解説

知っておきたい最新の動き

[RPA（Robotic Process Automation）]

最近、働き方改革関連で目にする用語に RPA があります。オフィスでの働き方を変えるそうです。さらに、先日（2018 年 4 月）、AI・人工知能 EXPO を見学した際、あちらこちらで RPA が使われていました。AI 技術を応用しているものもあるようです。ここでは、大きな話題となっているこの RPA を取り上げてみましょう。

１．RPA（Robotic Process Automation）とは

RPA とは、ロボットによる業務自動化への取り組みを表す用語です。人間が行う業務の処理手順を操作画面上から登録しておくだけで、さまざまなアプリケーションを駆使して、主にバックオフィスでの定型的な業務を処理するものです。

次の発展形としては、AI 等を活用して、ホワイトカラーの高度な業務の効率化・自動化に取組みます。

２．RPA の３つのクラス

大きく話題になっている RPA ですが、実は、厳密な定義があるわけではありません。

広義には、３つのクラスに分けられており、その中で、最初の段階であるクラス１が狭義の RPA、次のクラス２、クラス３が自律型 AI に相当するとされています。

（１）Class1：RPA（Robotic Process Automation）

定義されたルールに従って、自動的にデータを処理するものです。狭義的な意味での RPA です。主に、定型的な単純作業の正確さの確保、効率化が狙いとなります。

（２）Class2：EPA（Enhanced Process Automation）

Class1 に対し、大量のデータを解析し、その結果を出力します。活用としては、既存の画像をもとに新たな画像を自動的にカテゴリ分けする機能、ビッグデータから顧客の傾向を分析する機能などがあります。

（３）Class3：CA（Cognitive Automation）

Class2 に対し、より高度な意思決定を支援できるような結果を出力できます。収集したデータを高度に分析し、多様な選択肢の提案などが可能となります。活用としては、売上データや経済情勢などを多面的に分析した経営意思決定の案を生成するなどがあります。

アビームコンサルティング資料より

３．普及の状況

日本 RPA 協会とアビームコンサルティングの RPA 導入企業の実態把握調査によると、RPA は、2017 年から急速に普及、2018 年以降は、爆発的に拡大するとみられています。

また、RPA を導入した企業の 97%が 5 割以上の業務工数削減を実現しており、47%が完全自動化を達成しているとのことです。

４．終わりに

人手による作業と比較して、RPA の大きな特徴は、正確さ、速さだけではありません。疲れ知らずで 24 時間働けます。（昭和の時代のコマーシャルにありました。）、退職することはありません。（それまで、獲得したナレッジなどを失うことはありません。）しかも、不平不満を言ったりすることもありません。（ただし、飲み会などには付き合ってくれません。）

RPA の普及により、職場での人の業務、コミュニケーションのあり方などが変わっていくことになるでしょう。働き方改革は、いろいろな変化をもたらします。

［参考文献］

(1) ITmedia：RPA 導入企業の半数近くが業務の完全自動化を実現
http://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1803/13/news042.html

（注）

本解説は、執筆当時の状況に基づいて解説をしております。ご覧になる時には、状況が変わっている可能性がありますので、ご注意をお願いします。

Copyright (C) Satoru Haga 2018, All right reserved.

技術・経営の戦略研究・トータルサポータ
ティー・エム研究所
工学博士
中小企業診断士
社会保険労務士（登録予定）
代表　芳賀　知
E-Mail：info_tm-lab@mbn.nifty.com　URL：http://tm-lab@a.la9.jp/